

第1 策定の趣旨（計画の背景）

- （1）計画の位置づけ
- （2）対象となる施設
- （3）計画の目標期間

第2 現状と課題

- （1）人口減少、少子高齢化の進む伊賀市
- （2）厳しい財政状況
- （3）伊賀市のスポーツ施設の配置状況と利用状況
- （4）スポーツ施設が抱える課題
  - ①体育館等屋内スポーツ施設
  - ②屋外スポーツ施設（多目的グラウンド、競技場、野球場等）
  - ③テニスコート
  - ④プール
  - ⑤ゲートボール場
  - ⑥B&G海洋センター
  - ⑦武道場（剣道場、武道場）、弓道場
  - ⑧管理棟
  - ⑨施設全体
- （5）市民のスポーツニーズと課題
  - ①健康増進のためのスポーツ
  - ②競技スポーツの推進について
- （6）公共施設最適化計画の推進に向けた課題

第3 生涯スポーツ都市宣言推進と体育施設

- （1）生涯スポーツ推進のための施設のあり方
  - ①スポーツに親しむための施設のあり方
  - ②スポーツを通じた活力ある地域づくりについて
- （2）施設における使いやすさと効率性の均衡に
  - ①使いやすい施設
  - ②効率性の高い施設
  - ③施設運営に向けた協働

第4 体育施設アンケート分析

第5 市民ニーズに対応した持続可能なスポーツ施設のあり方

- （1）スポーツ施設再編計画 基本計画
- （2）スポーツ施設再編計画 個別計画

第6 今後10年間のスポーツ施設整備

## 第1 策定の趣旨（計画の背景）

少子高齢化の進行に伴う子どもたちの運動機会の減少による体力・運動機能の低下や、増加する高齢者世代の健康志向、市民のライフスタイルの変化による多様なスポーツニーズなど、生涯を通じたスポーツへの需要が高まっていることから、伊賀市では「伊賀市生涯スポーツ都市宣言」を行いました。心と体の健康を育むとともに、人と人の交流を深め、明るく活力に満ちた生きがいのある生活を送るため一人ひとりが生涯にわたりスポーツに親しみ、健康で明るいまちづくりを推進しています。

また、2021年に開催が予定されています「三重とこわか国体」では、伊賀市でハンドボール（少年女子）、軟式野球（成年男子）、サッカー（女子）、クレー射撃（成年）、剣道（全種別）などの競技会場として決定しています。国体の気運の醸成に合わせて今後のスポーツ振興を図るための整備や体制を整えていく必要があります。

市町村合併前には、地域住民の健康増進や多様化するレクリエーションへの需要に対応するため、スポーツ事業の取り組みやスポーツ関連団体への支援を行ってきました。スポーツ施設の整備についてもそれぞれの市町村ごとに進めてきたため類似施設が多く、さらに、建設後20年以上経ち老朽化が進行しており、修繕費が増加し、維持管理経費を圧迫していきます。しかし、人口減少により利用者がますます限定されてきている施設もあり、公益性の観点から施設のあり方や配置を見直す時期が来ています。

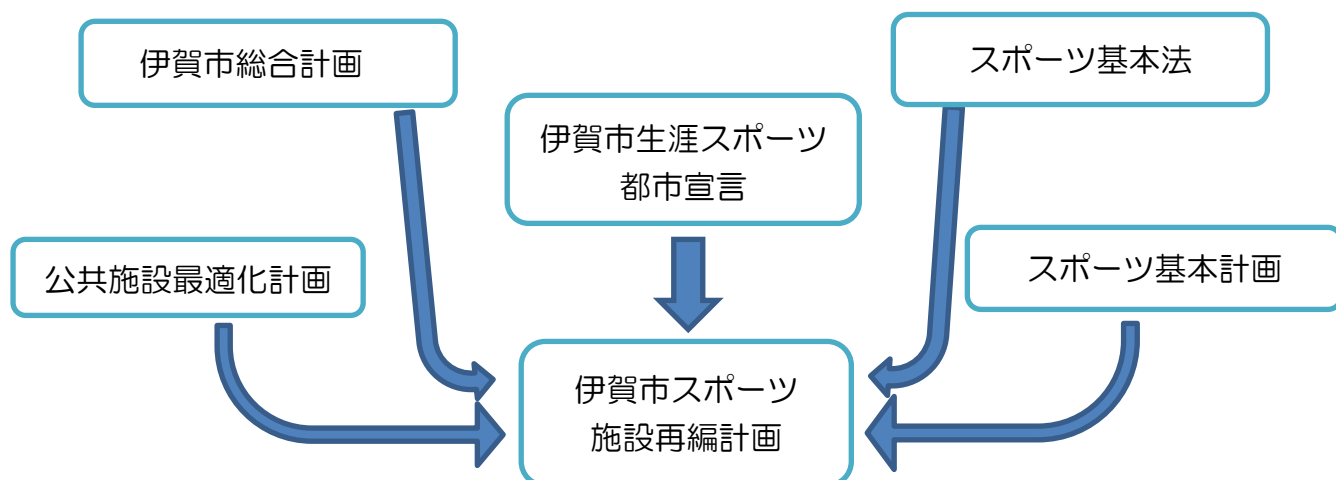
持続可能な公共サービスの実現に向けて平成26年度に公共施設最適化計画が策定されました。そこではそれぞれの施設の減少を踏まえ縮小や複合化などの方針が示されています。市民が生涯を通じてスポーツに親しむことができるよう学校施設も含めてスポーツに使用できる施設を継続的に維持、提供するとともに老朽化した既存施設の維持改修を計画的に行うこと、施設の廃止、統合などを進めることなどについて今後の方針を整理する必要があります。そのためには、安全かつ快適で、人口規模、財政状況に見合った効率的で持続可能な施設運営を行っていく必要があります。地域のスポーツニーズに対応しつつ、地元地域やスポーツ施設の利用者、スポーツ団体等の意見にも配慮をしつつ、公平性の観点からも施設のあり方を見直し、計画を策定する必要があります。

第2次伊賀市総合計画に掲げる「文化活動やスポーツ活動が活発なまちづくり」に取り組み、スポーツ活動の促進事業やスポーツ施設の整備事業をすすめるため、今後のスポーツ事業の方向性を見据えることはもちろん、目的や用途も考慮しスポーツ振興の視点からスポーツ施設に関してコストの状況、利用の状況等の各要素について現状把握を行い、伊賀市生涯スポーツ都市宣言との調和を図り、可能な限り機能を維持しながら施設の再編を進める必要があります。

### （1）計画の位置づけ

本計画は「伊賀市公共施設最適化計画」を踏まえながら持続可能なスポーツ振興を

図っていくため、伊賀市生涯スポーツ都市宣言の実現に向け、今後の伊賀市のスポーツ施設の再編と整備の指針となるものです。



## (2) 対象となる施設

本計画の対象は、伊賀市体育施設条例第2条に規定するスポーツ施設、[学校開放施設](#)、[県の施設](#)、[民間施設](#)など含み全体的な視点から検討します。

## (3) 計画の目標期間

本計画の目標期間は、2020（令和2）年度から2029（令和11）年度までの10年間とします。

## 第2 現状と課題

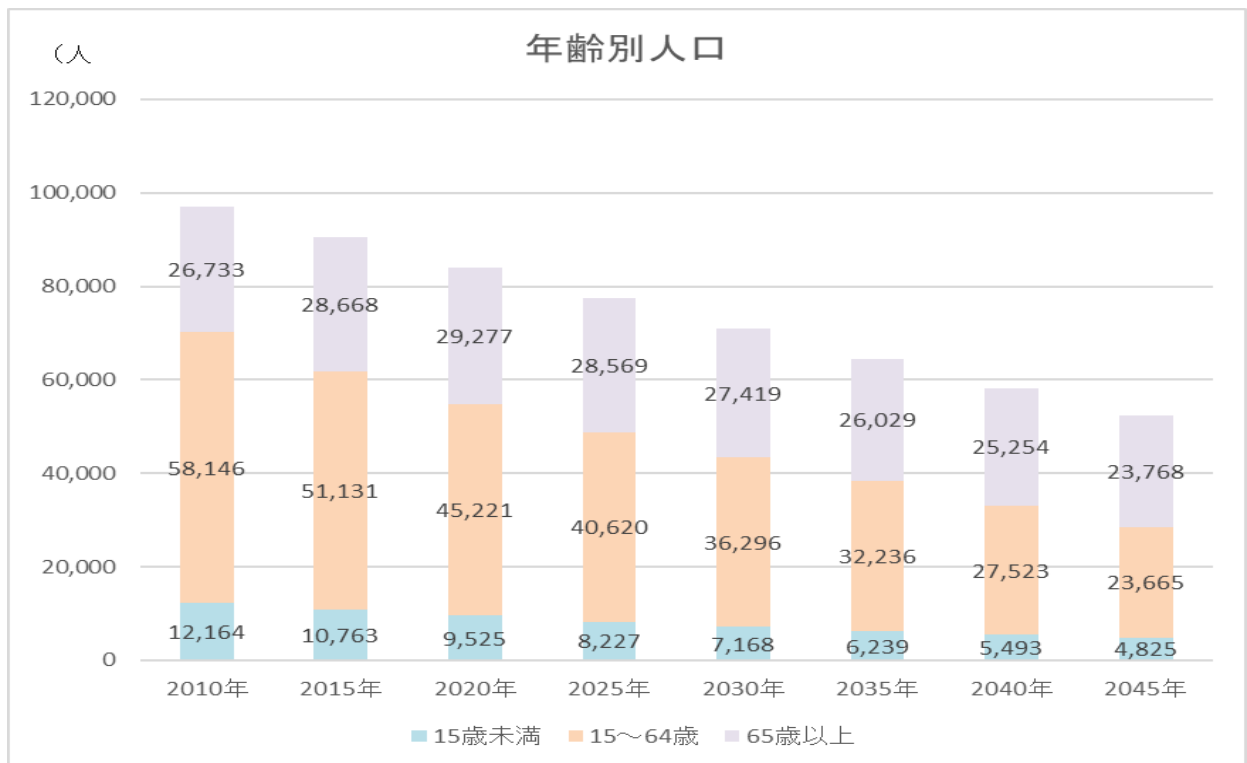
### (1) 人口減少、少子高齢化の進む伊賀市

伊賀市は2004（平成16）年11月1日に6つの市町村が合併により誕生し、15年が経過いたしました。合併当時とは社会情勢も大きく変動し、2005（平成17）年4月には103,089人であった人口も2019（令和元）年6月現在91,630人、2030（令和12）年では約71,000人まで減少しさらに長期的に人口減少が続くことが予想されています。このことは今後のスポーツ人口への影響も大きく、[青少年のスポーツ人口の減少や高齢者のスポーツ人口の増加などスポーツニーズも変化し、大きく影響が生じるものと考えます。](#)

年齢別人口

単位：人

	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年
15歳未満	12,164	10,763	9,525	8,227	7,168	6,239	5,493	4,825
15～64歳	58,146	51,131	45,221	40,620	36,296	32,236	27,523	23,665
65歳以上	26,733	28,668	29,277	28,569	27,419	26,029	25,254	23,768
合計	97,043	90,562	84,023	77,416	70,883	64,504	58,270	52,258
うち75歳以上	14,452	15,159	15,782	17,284	17,620	16,941	15,967	14,859
15歳未満人口比率	12.5%	11.9%	11.3%	10.6%	10.1%	9.7%	9.4%	9.2%
15～64歳人口比率	59.9%	56.5%	53.8%	52.5%	51.2%	50.0%	47.2%	45.3%
65歳以上人口比率	27.5%	31.7%	34.8%	36.9%	38.7%	40.4%	43.3%	45.5%
75歳以上人口比率	14.9%	16.7%	18.8%	22.3%	24.9%	26.3%	27.4%	28.4%



## (2) 厳しい財政状況

伊賀市においても少子高齢化や地域経済の低迷により、厳しい財政状況となっており、中期財政見通しでは令和6年度と令和元年度を比較すると歳入では主に市税や合併算定替の段階的縮減による地方交付税の減少、合併特例債の終了などにより財源がますます減少していくことが予想されています。健全な財政運営を図るため、自主財源を確保し、市民も税負担の公平性を高める必要があります。さらに合併当時からほぼ見直しのされていないスポーツ施設の配置についても、老朽化による改修をはじめ規模、機能の面で多くの課題を抱えています。様々な面でまちづくりの考え方の見直しを行う中で、全市的な視点で、だれもが気軽に楽しむことができるスポーツ活動を推進するために、長期的な人口減少と社会情勢を見据えながら今後のスポーツ施設のあり方を整理し、配置の最適化を図り、効率的で持続可能な施設運営を行えるよう検討が必要です。

## (3) 見直しの視点

体育施設の種別ごと、施設ごとにそれぞれの課題があります。それらを解決するためには現状を検証したうえで再編に向けた考え方を整理しなくてはなりません。施設の利用状況と建物の現状を把握し、今後の人口推計も踏まえながら今後のあるべき施設配置の検討が必要です。

### ① 社会体育施設としての役割

- ・ 受益の範囲
  - ・ 利用主体は市民か
  - ・ 利用頻度と利用者数
  - ・ 利用者の固定化
- ・ 施設の状況
  - ・ 耐震はどうか
  - ・ 設備は充実しているか
  - ・ 今後大規模修繕は必要か
  - ・ その他安全上の問題は

### ② 市の規模に見合った配置

- ・ 施設数
  - ・ 地域ごとの配置数
- ・ 利用状況とニーズ
  - ・ スポーツ人口の将来予想

## (4) 伊賀市のスポーツ施設の配置状況と利用状況

2020年3月現在、市が所有する施設は合併前に整備された施設をほぼ維持し27施設と管理棟3施設が存在します。(別に県所有の施設が1施設あります。)  
また、市立小中学校の運動場や体育館等の学校開放がされています。

平成30年度実績から

	体育館	建築年度	構造	耐震	稼働日数	稼働率	稼働率評価	年間利用者数	稼働1日当たりの利用者数	稼働1日当たりの利用者数種別ごとの偏差値	偏差値評価
1	伊賀市民体育館（上野運動公園体育館含む）	2000	鉄骨造 スレート瓦葺瓦棒葺 2階	有	357	97.8	A	25,831	72.4	64.31	A
2	阿山B&G海洋センター体育館	1989	鉄筋コンクリートスレート葺 2階建て	有	304	83.3	B	18,926	62.3	59.35	A
3	大山田B&G海洋センター体育館	1988	鉄筋コンクリート2階建て	有	356	97.5	A	17,084	48.0	52.34	B
4	青山北部公園運動施設	1962	鉄筋コンクリート	無	305	83.6	B	4,853	15.9	36.59	C
5	大山田東体育館	1994	鉄骨造	有	130	35.6	C	1,769	13.6	35.46	C
6	青山児童屋内運動場	1982	鉄筋コンクリート	無	12	3.3	C	566	47.2	51.94	B
7	青山高尾体育館	1988	鉄骨造	有	14	3.8	C	688	49.1	52.91	B

平均 43.2

標準偏差 20.4

プール				耐震	稼働日数	稼働率	稼働率評価	年間利用者数	稼働1日当たりの利用者数	稼働1日当たりの利用者数種別ごとの偏差値	偏差値評価
1	大山田B&G海洋センタープール	1988	鉄骨造	有	48	13.2	C	4,437	92.4	60.07	A
2	上野運動公園プール	1950			0	0	C	0	0.0	36.37	C
3	阿山B&G海洋センタープール	1989	鉄骨造	有	39	10.7	C	2,614	67.0	53.56	B

平均 53.2

標準偏差 39.0

競技場/多目的広場等				耐震	稼働日数	稼働率	稼働率評価	年間利用者数	稼働1日当たりの利用者数	稼働1日当たりの利用者数種別ごとの偏差値	偏差値評価
1	阿山第1運動公園グラウンド	1983			126	34.5	C	44,222	351.0	74.64	A
2	上野運動公園競技場	1975	鉄筋コンクリート (本部棟 1997)	本部棟有	136	37.3	C	24,936	183.4	57.72	A
3	しらさぎ運動公園多目的グラウンド	2015			302	82.7	B	21,040	69.7	46.25	B
4	いがまちスポーツセンターグラウンド	1992			201	55.1	C	9,837	48.9	44.16	C
5	ゆめが丘多目的広場	2000	鉄骨造スレート葺 (クラブハウス)	クラブハウス有	83	22.7	C	9,837	118.5	51.18	B

6	青山グラウンド	1997	鉄骨鉄筋コンクリート（事務所）	事務所有	148	40.5	C	12,027	81.3	47.42	B
7	阿山第2運動公園	1983			56	15.3	C	13,945	249.0	64.35	A
8	島ヶ原運動広場	2007			138	37.8	C	6,142	44.5	43.71	C
9	青山矢持グラウンド				39	10.7	C	1,271	32.6	42.50	C
10	大山田東グラウンド				60	16.4	C	627	10.5	40.27	C
11	青山高尾グラウンド				18	4.9	C	522	29.0	42.14	C
1	上野運動公園野球場	1963	鉄筋コンクリート陸屋根（本部棟1997）	本部棟有	157	43.0	C	10,029	63.9	45.66	B

平均 106.8  
標準偏差 99.1

	テニスコート				耐震	稼働日数	稼働率	稼働率評価	年間利用者数	稼働1日当たりの利用者数	稼働1日当たりの利用者数種別ごとの偏差値	偏差値評価
1	上野緑ヶ丘テニスコート	1956				213	58.4	C	9,257	43.5	69.5	A
2	上野運動公園テニスコート	1980				327	89.6	B	7,750	23.7	55.15	A
3	ゆめが丘テニスコート	1997				323	88.5	B	4,974	15.4	49.12	B
4	阿山第1運動公園テニスコート	1983				203	55.6	C	1,485	7.3	43.25	C
5	いがまちスポーツセンターテニスコート	1992				117	32.1	C	742	6.3	42.54	C
6	青山テニスコート					61	16.7	C	210	3.4	40.44	C

平均 16.6



標準偏  
差 13.8

武道場等／トレーニングルーム				耐震	稼働日数	稼働率	稼働率評価	年間利用者数	稼働1日当たりの利用者数	稼働1日当たりの利用者数種別ごとの偏差値	偏差値評価
1	阿山B&G海洋センタートレーニングルーム	1989	鉄筋コンクリートスレート葺	有	334	91.5	A	10,853	32.5	62.17	A
2	伊賀上野武道館剣道場	1983	鉄骨造	有	294	80.5	B	4,493	15.3	46.55	B
3	大山田B&G海洋センタートレーニングルーム	1988	鉄筋コンクリート陸屋根	有	316	86.6	B	4,430	14.0	45.4	B
4	伊賀上野武道館柔道場	1983	鉄骨造	有	126	34.5	C	2,565	20.4	51.15	B
2	伊賀市民弓道場（伊賀上野武道館弓道場含む）	1973	鉄骨造スレート葺		364	99.7	A	195	0.5	33.16	C
	いがまちスポーツセンター（健康ふれあいセンター）	1999	木造スレート葺	有	341	93.4	A	10,853	31.8	61.57	A

平均 19.1  
標準偏差 11.0

ゲートボール場				耐震	稼働日数	稼働率	稼働率評価	年間利用者数	稼働1日当たりの利用者数	稼働1日当たりの利用者数種別ごとの偏差値	偏差値評価
1	阿山第1運動公園屋内ゲートボール場	1996	鉄骨造折板厚鉄	有	320	87.7	B	55,113	172.2	64.13	A
2	いがまちスポーツセンターゲートボール場	1992			0	0.0	C	0	0.0	42.41	C
3	しらさぎ運動公園屋外ゲートボール場	2015			3	0.8	C	25	8.3	43.46	C

平均 60.2

標準偏  
差 79.3

艇庫				耐震	稼働日数	稼働率	稼働率評価	年間利用者数	稼働1日当たりの利用者数	稼働1日当たりの利用者数種別ごとの偏差値	偏差値評価
1	阿山B&G海洋センター艇庫	1989			4	1.1	C	87	21.8	40.00	C
2	大山田B&G海洋センター艇庫	1988			6	1.6	C	195	32.5	60.00	A

平均 27.1  
標準偏差 5.4

管理棟等				耐震	稼働日数	稼働率	稼働率評価	年間利用者数	稼働1日当たりの利用者数	稼働1日当たりの利用者数種別ごとの偏差値	偏差値評価
1	しらすぎ運動公園管理棟	2015			121	33.2	C	1,713	14.2	36.55	C
2	上野運動公園スポーツセンター	1994	鉄筋コンクリート陸屋根	有	31	8.5	C	748	24.1	52.95	B
3	伊賀市民体育館管理棟	1991	鉄骨造（屋根）不燃シングル	有	102	27.9	C	2,929	28.7	60.50	A

平均 22.3  
標準偏差 6.1

#### 利用状況の評価

（各評価項目ごとの指標と評価  
類型の考え方）

評価項目	A (3ポイント)	B (2ポイント)	C (1ポイント)
稼働率	稼働率が9割を超える施設	稼働率が6割から9割の施設	稼働率が6割未満の施設
条例及び規則による年間運営日数に対する実際の稼働日数の割合			
稼働1日当たりの利用者数	稼働1日当たりの利用者数が種別ごとの比較で偏差値55超	稼働1日当たりの利用者数が種別ごとの比較で偏差値45～55超	稼働1日当たりの利用者数が種別ごとの比較で偏差値45未満

### 学校開放利用者数

(人)

	施設数	26年	27年	28年	29年	30年
小学校	21	187,518	194,923	198,548	154,119	133,587
中学校	10	45,921	55,209	60,343	56,721	62,467
合計	31	233,439	250,132	258,891	210,840	196,054

### (5) スポーツ施設が抱える課題

#### 【種別ごと】

#### ① 体育館等屋内スポーツ施設

施設の利用率では市内中心部に近い施設と中心部から離れた施設では大きな差と固定化が生じてきました。その要因としてスポーツ施設の中には過去の学校の統廃合により学校施設から社会教育施設へと移管された体育館があります。これらは概ね利用主体が地域住民となっており、コミュニティ施設としての性格が強くなっています。施設の維持管理費にかかる負担の問題や災害時の避難施設となっている施設もあり、地元への譲渡に至っていない傾向にあります。青山地区においては青山北部公園運動施設体育館は支所移転先となったことや老朽化も著しかったこともあり廃止したことから、青山地区の体育館の整備方針を検討する必要があります。

各地域では学校の体育館などの学校施設の開放を行っています。今後も学校の統廃合の進展が想定されますが、地域内で利用率の高かった公民館施設として支えている施設や地域スポーツを支えてきた体育館の今後についてどのような対応をしていくのが課題です。市内の施設間の需要の平準化と老朽化による修繕費など維持管理費の増大が大きな課題となっています。

## ② 屋外スポーツ施設（多目的グラウンド、競技場、野球場等）

野球やサッカーなどのスポーツ少年団は主に小学校の学校開放によるグラウンドを中心に、中高生はそれぞれの学校グラウンドで部活を、社会人も幅広い年代が野球場や多目的グラウンドで活動をしています。団体競技であることから人口の多い中心部の施設の利用が多くなる傾向にあります。屋内スポーツ施設と同様に学校施設から社会教育施設へと移管された施設は、地域のコミュニティ施設としての性格が強くなっており、利用は概ね地域住民と限定的になっています。市内中心部に近い施設と中心部から離れた施設では大きな差と固定化が生じてきました。

サッカー場は芝生の施設が3施設ありますが、芝生の養生のため使用期間が制限されることがあり、利用状況に変動があります。

## ③ テニスコート

テニスコートは6施設が点在しており利用状況は地域により大きな差が生じています。多くの施設で減少傾向にあるため利用状況や管理運営の観点またスポーツ振興の視点から集約等についても方向を検討する必要があります。

## ④ プール

プールはB&G海洋センターが2施設あり、天候に左右されず、また夜間の利用が可能となっているため、利用状況に大きな変動はありません。しかし夏季に限定されるため開設日数が少ない施設であることと少子高齢化により利用者の増加が見込めないと考えられるため効果的な稼働が課題となっています。

## ⑤ ゲートボール場

ゲートボール場は3施設ありますが、阿山第1運動公園ゲートボール場に集中しています。しらさぎ運動公園屋外ゲートボール場は屋外施設であり、しらさぎ運動公園多目的グラウンドが屋内でのゲートボール場として利用することができるためほとんど利用がありません。いがまちスポーツセンターゲートボール場でも年々利用者が減少しており、今後の利用状況を見据えたうえで新たな方向性を模索する必要があります。

## ⑥ B&G海洋センター艇庫

艇庫は2施設あり、どちらも利用実績は低くなっています。

## ⑦ 武道場（剣道場、柔道場）、弓道場

武道場については公共施設最適化計画では「Ⅱ期 縮小」の施設であることから利用ニーズを把握したうえで検討の必要があります。

## ⑧ 管理棟

管理棟は3施設あり、利用状況に差がありますが、管理事務所になっています。

### 【施設全体では】

施設全体の課題として、少子高齢化を迎え、ライフスタイルの多様化やスポーツに対する市民ニーズの多様化から、それらに対応できる環境整備が求められています。

#### ① 施設の老朽化

スポーツ施設は整備後20年以上経過している施設がほとんどで、大規模改修が必要な施設も見られます。トイレなどの設備も時代背景に対応できていない施設もあります。

今後は将来のニーズを見極めながら施設整備を検討する必要があります。

## ② 大規模な大会に対応できる施設への整備

本市が所有する施設で大規模な大会が開催可能な施設は上野運動公園競技場と上野運動公園野球場です。競技場は芝生が張られ養生期間が必要となることや選手の控室などの環境、見るための環境などにも多くの課題があり、市内に全国レベルの女子サッカーチームが所在しているにもかかわらず環境整備が向上していかない状況にあります。また、陸上競技場としての400mトラックの全天候化も課題となっています。

## ③ 利用の少ない施設や安定的な利用ができない施設

年間を通じて利用者が極端に少ない施設や、同じ機能の施設を持つ施設が複数あることから利用が少ない施設があります。

また、グラウンドの中には雨など天候に左右されグラウンドの環境を悪化を避けるため使用させない場合があるなど安定した利用ができない施設があります。

## ④ 災害時の避難所

体育施設の中には災害時の避難所となっている施設があるためスポーツ施設の機能と避難所の役割の整理をする必要があります。

【拠点避難所】 大山田東体育館、青山児童屋内運動場

【指定避難所】 上野運動公園体育館、阿山B&G海洋センター、大山田B&G海洋センター、青山北部公園体育館

【ヘリポート】 いがまちスポーツセンター総合グラウンド、大山田東グラウンド、阿山第一運動公園、大山田B&G海洋センター駐車場、上野運動公園野球場、上野運動公園競技場、ゆめが丘多目的広場、青山北部公園運動施設、青山高尾グラウンド、青山矢持グラウンド、青山グラウンド

## ⑤ 計画的な整備

財政状況を見極め、大規模な改修を含め必要性を十分検討し計画的な整備を行う必要があります。

## (6) 市民のスポーツニーズと課題

### ① 健康増進のためのスポーツ

スポーツ基本法（前文）では、「スポーツは、心身の健康の保持増進にも重要な役割を果たすものであり、健康で活力に満ちた長寿社会の実現に不可欠」であると規定されております。スポーツを楽しみながら適切に継続することで、生活習慣病の予防・改善や介護予防を通じて健康寿命の延伸への貢献が期待されます。現役世代では、日々忙しく、なかなかスポーツをするための時間が確保できない、また、自分の健康課題に対する危機感をそれほど感じていない現状があります。健康のためにスポーツを推進している国の「スポーツ基本計画」では成人の週1回以上のスポーツ実施率を65%程度とする目標を掲げています。本市でも誰もが各々の年代や関心・適正等に応じて日常的に身近で気軽に、生涯にわたって目的に応じたスポーツ活動に親しむことのできる機会の創出と環境づくりを検討する必要があります。関係部署やスポーツ団体、総合型地域スポーツクラブなど、官民連携による取り組みが必要です。

総合型地域スポーツクラブを中心とした地域スポーツ環境の整備として、トッパア

スリートの活用や「新しい公共」を担うコミュニティクラブの推進、学校体育施設の有効利用も検討する必要があります。

## ②競技スポーツの推進について

市の競技スポーツの推進については、伊賀市体育協会がその一翼を担い加盟の各種目協会が独自で種目別スポーツ大会や種目別教室を開催し競技スポーツを推進してきました。概ねその競技スポーツの実践する場所としては、学校施設ではなくその競技に適した市体育施設条例で位置づけられた特定の施設となります。現在の市のスポーツ施設の中でスポーツ庁が策定「スポーツをする」、「スポーツをみる」を実践できる施設は、上野運動公園競技場、上野運動公園野球場の2施設、伊賀市民弓道場サッカーがゆめが丘多目的広場、阿山第1・第2運動公園、柔剣道が伊賀上野武道場になります。

### (6) 公共施設最適化計画の推進に向けた課題

厳しい財政状況の中、これまで通りの施設運営を行うことは困難な状況です。社会体育施設全体の利用状況からも使用率の低い施設や老朽化が著しい施設、多額の維持管理費用がかかる施設が多くあり、社会体育施設としての目的と位置づけを明確にし施設の集約化を図る必要があります。

## 第3 生涯スポーツ都市宣言推進と体育施設

### (1) 生涯スポーツ推進のための施設のあり方

#### ①スポーツに親しみ楽しむための施設について

#### 【スポーツに親しみ楽しむ施設とは】

- ア 身近に施設があること
- イ その施設で多種多様な教室のメニューがあること
- ウ やりたい種目の施設があること

#### 【現状と課題】

スポーツに親しみ楽しむスポーツ施設にするには、施設の充実もさることながら、当該地域のスポーツ事情に精通しているスポーツ指導者（スポーツ推進委員等）の存在が必要不可欠であり、各種教室を開催する地域の体育組織や総合型地域スポーツクラブの存在が身近な環境にあることが、スポーツに親しみ楽しむことができる要因となっています。

しかしながら、全地域に総合型スポーツクラブがないことなどが課題となっています。

#### ②スポーツを通じた活力ある地域づくりについて

#### 【現状と課題】

スポーツを通じた活力ある地域づくりを行っていくには、地域に総合型地域スポーツクラブ等の地域スポーツの組織の形成が必要であり、その組織の中心的役割の担い手がスポーツ推進委員及びスポーツクラブにおいてはマネージャーであり、その組織の拠点となる施設として当市では概ね学校開放施設が担っている状況です。

## (2) 施設における使い易さと効率性の均衡について

### ①使い易い施設

- ア 身近な施設でその施設までの行き帰りが苦にならない
- イ 使用料金が手軽である
- ウ 予約が容易にできる

#### 【現状と課題】

ア、イに該当する施設としては、地域内にある学校施設であり、スポーツ施設の再編を考える上では必要不可欠な施設です。市営体育館が身近に無い地域もあることからその重要度が高いと考えています。

しかし学校開放施設には予約等について管理人が常に在駐しているスポーツ施設にはない不便な点があります。

### ②効率性の高い施設

#### ア 稼働率評価の高い施設

稼働率評価 Aの施設（9割を超える）5施設

伊賀市民体育館、大山田B&G海洋センター体育館、阿山B&G海洋センタートレーニングルーム、いがまちスポーツセンタートレーニングルーム 伊賀市民弓道場

稼働率評価 Bの施設（6割以上9割以下）7施設

阿山B&G海洋センター体育館、しらさぎ運動公園多目的グラウンド、上野運動公園テニスコート、ゆめが丘テニスコート、伊賀上野武道館剣道場、大山田B&G海洋センタートレーニングルーム、阿山第1運動公園屋内ゲートボール場

#### 【現状と課題】

夜間照明施設がありながら稼働率評価がCにあまんとしている施設については、夜間の利用者が開設された当時は沢山いたが、現在は減少傾向にある施設といえます。屋外多目的施設の夜間照明はコストもかかることから、ニーズのない施設については夜間利用について見直す必要があります。

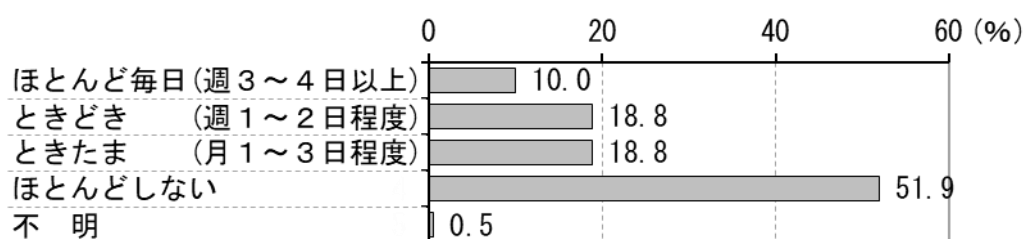
## (3) 施設運営に向けた協働

適正な施設運営には、使い易さと効率性の相乗効果が必要不可欠であり、稼働率評価の高い施設は、使い易いことによって稼働率評価も高くなると考えられ、概ね市民ニーズに対応した施設であるといえます。また使い易い施設である学校開放施設と稼働率評価の高いスポーツ施設を概ね地域内にバランスよく再編することがスポーツ振興の観点から重要です。

## 第4 体育施設アンケート分析

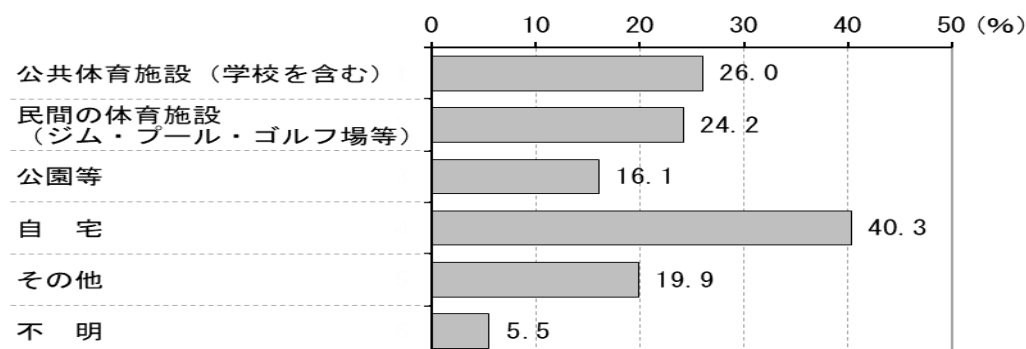
アンケートについては、無作為抽出した市民2,222人に対し平成30年8月30日に配布を開始し、同年9月30日までに回収し、2,222票のうち、782票を回収しており、回収率は35.2%となっています。

### ①あなたのスポーツ・運動の状況はどのくらいですか？



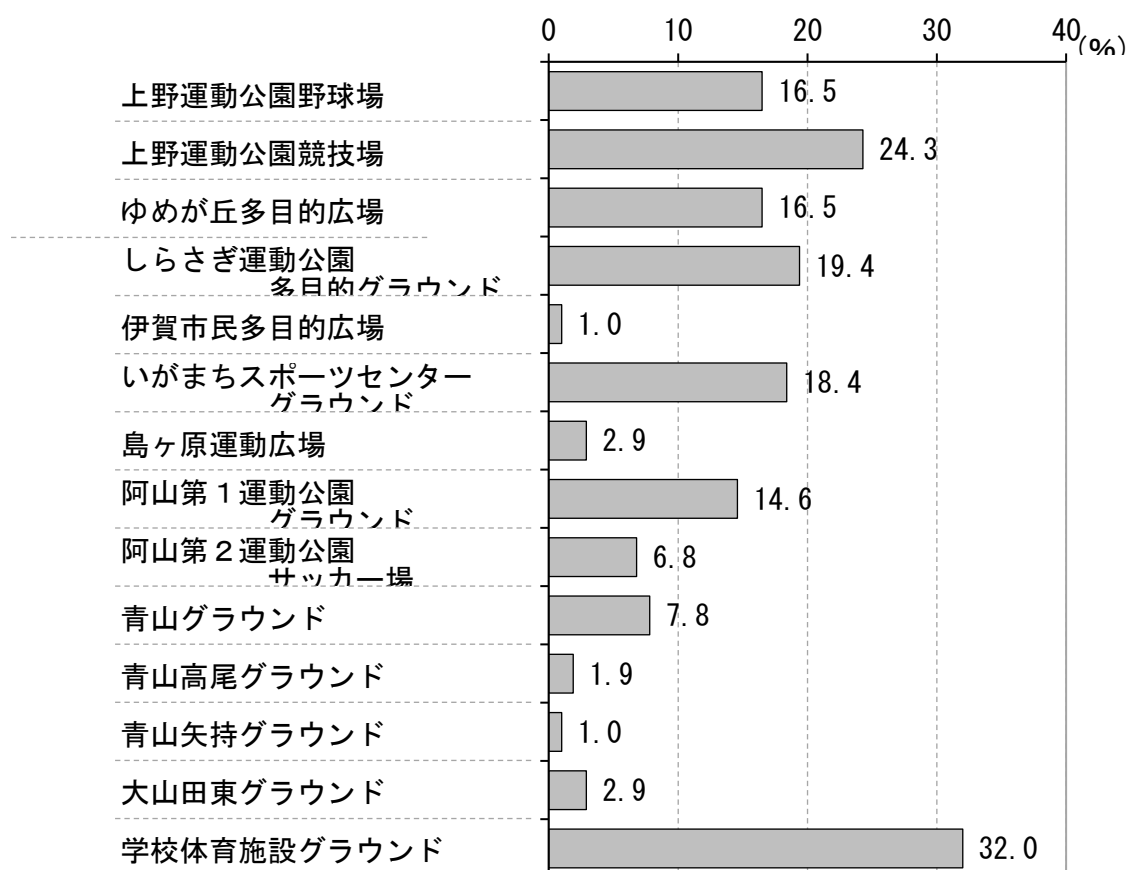
ほとんどスポーツをしない人が51.9%となっている現状です。今後はこの割合をスポーツ振興施策によって減少させることが課題です。

②あなたが、スポーツ・運動をする場合どのような場所で行いますか？

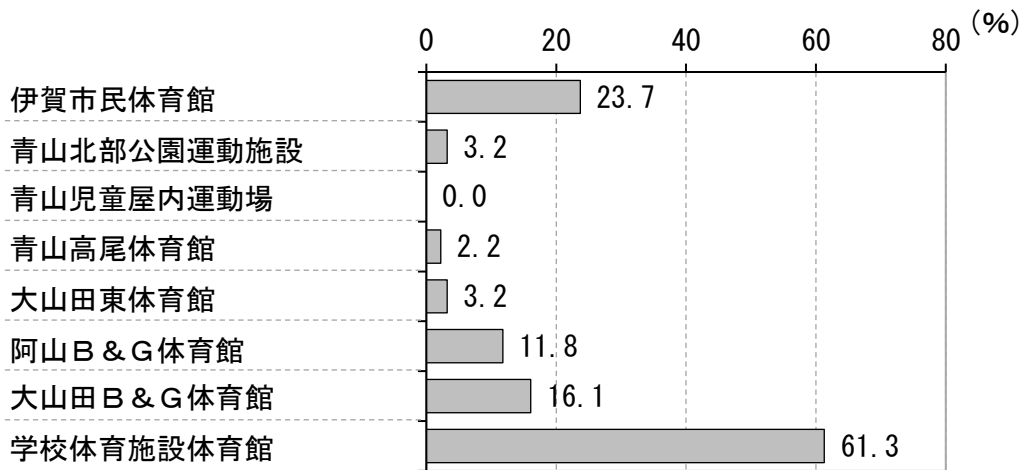


自宅での割合が40.3%、と最も高く、学校を含む公共体育施設が26.0%となっており、スポーツを実施する場所においては、学校を含む公共体育施設の重要度が高いことが分かります。

上記②中で利用頻度の高い施設は、どこですか？

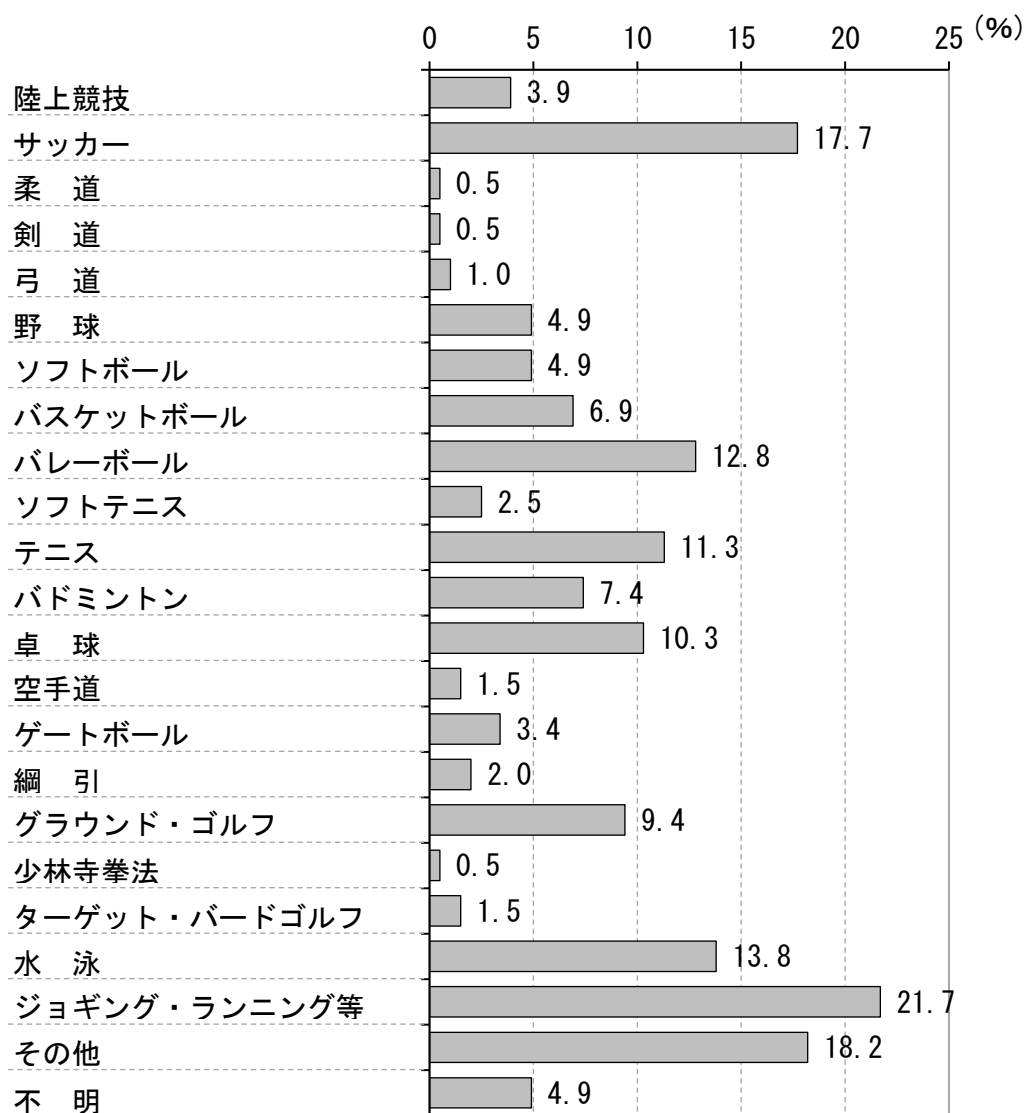






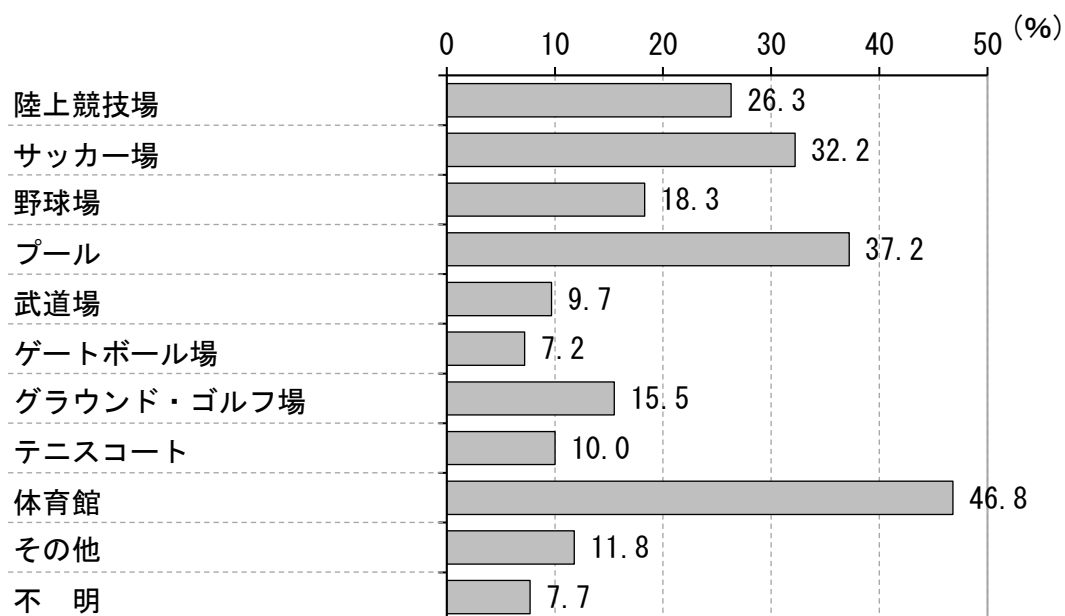
学校グラウンド及び体育館とも割合が高くなっていることから、身近な場所でスポーツをする方が多いことがわかります。

③あなたが公共の体育施設及び学校体育施設で運動・スポーツをする場合、どのような種目を行いますか？



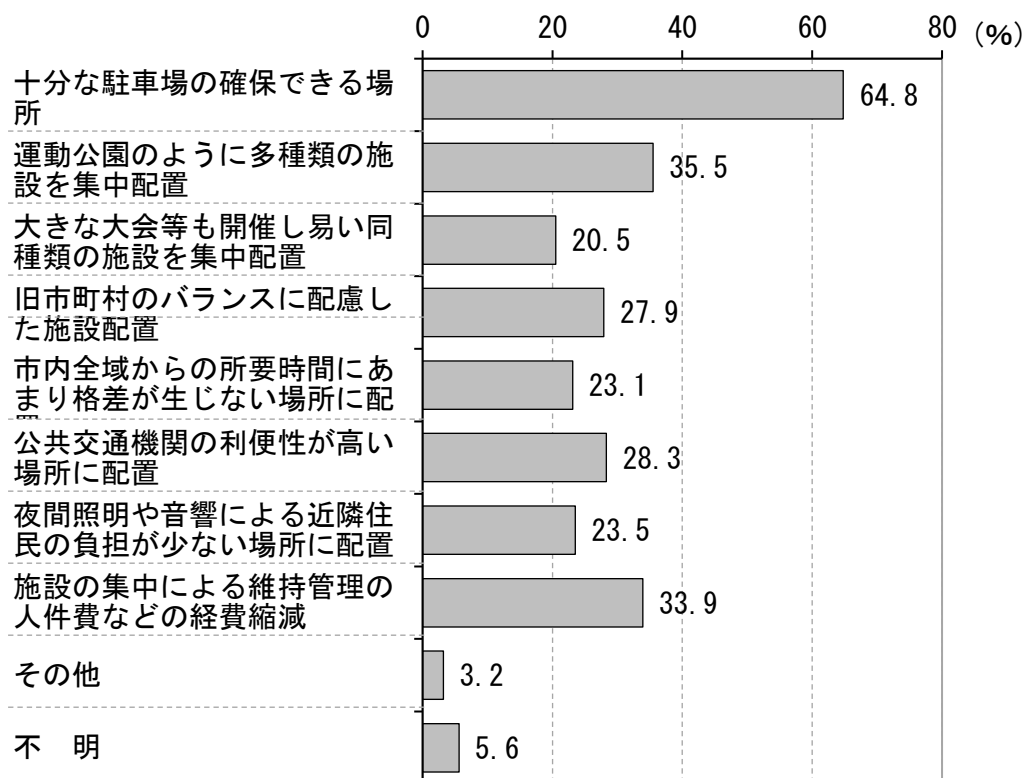
ジョギング・ランニング・ウォーキングが21.7%、サッカーが17.7%、水泳が13.8%、バレーボール12.8%、テニスが11.3%、卓球が10.3%となっています。

④伊賀市の将来のために充実させるべき体育施設は何であると思われますか？



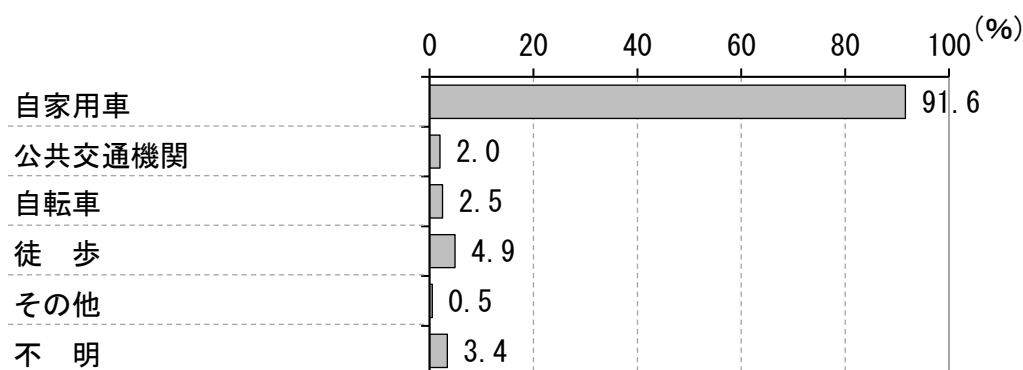
③④から上野運動公園競技場内のジョギングコース、各サッカー場、市民体育館、市民プールは特に重要な施設であることが分ります。

⑤スポーツ施設の適正配置を検討する場合に重視すべき視点はこういったところだと思いますか？



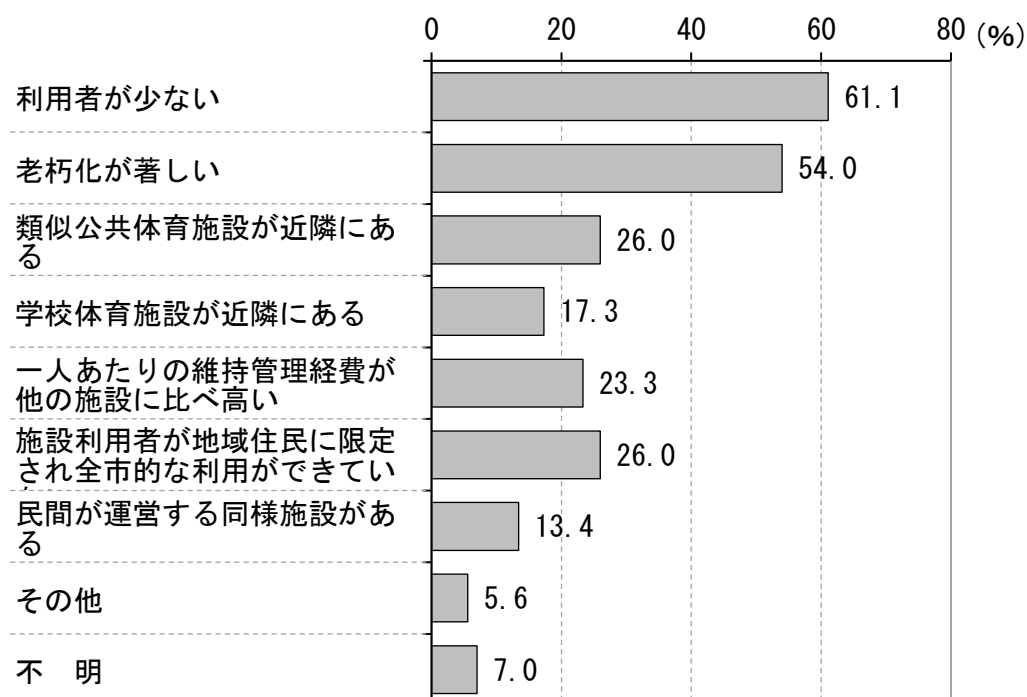
十分な駐車場が確保できる場所であることが64.8%、運動公園のように多種類の施設を集中して配置することが35.5%、施設の集中によって、施設の維持管理にかかる人件費などの経費縮減を図ること33.9%となっています。

⑥あなたが公共体育施設及び学校体育施設を利用する場合の交通手段はなんですか？



自家用車の割合が91.6%とほとんどの利用者が車での利用であることから、広い駐車場がある、多種類の施設がある運動公園を望んでいることが分ります。

⑦サービスを維持していくためには、どのような施設を見直すべきだと思いますか？



⑦から利用者が少ない、老朽化が著しい、類似公共施設が近隣にある並びに施設利用者が地域住民に限定され全市的な利用ができていない施設については、見直した方がいいと思っている方が多いことが分りました。

⑧公共体育施設（学校体育施設を除く）のより望ましい施設利用について、体育施設面以外で市民に使い易くするためのサービスは？

- ・使用時間の単位を1時間単位から30分単位にするが いいえ 60.7%
- ・使用時間の延長 はい 65.5%
- ・予約時のインターネット利用 はい 78.6%
- ・施設の情報提供をもっと増やす はい 85.8%となっています。

ここでは、ネット予約等の導入を望む声が多いことがわかります。このような声をスポーツ施設再編計画基本計画に盛り込んでいきたいと考えています。

## 第5 市民ニーズに対応した持続可能なスポーツ施設のあり方

### (1)【スポーツ施設再編計画 基本計画】

#### ①地域スポーツ振興のための施設

地域スポーツ振興のための施設としては、最も身近な施設である学校開放施設及びを利用し、地域住民がこれまで以上に有効かつ効率的に活用できるようにすることが具体的な方法の一つであると考えられる。市が任命しているスポーツ推進委員が中心となり、スポーツ推進のための事業の実施並びに住民に対するスポーツの実技の指導等の場としてさらに利用できるよう指導していく。

その利用者は、前述の伊賀市のスポーツ施設の配置状況と利用状況の別表のとおり年間累計で約20万人です。

#### ②競技スポーツ振興のための施設

競技スポーツの実践する場所としては、その競技に適した市体育施設条例で位置づけられた施設であり、スポーツ庁が2017年に策定した第2期スポーツ基本計画に掲げている「する」、「みる」、「ささえる」を実践できる施設整備が必要となります。

#### (1) 効率的な施設運営について

ア 効率的な施設運営には、施設の集約及び集合化は避けて通ることができないことから、「する」、「みる」、「ささえる」を実践できる競技スポーツ施設については伊賀市を2つのエリアで考え、施設の集合・集約を図る。

(伊賀市スポーツ施設再編計画エリア配置図参照)

- i 上野運動公園エリア サッカーエリア
- ii 阿山運動公園エリア 野球エリア

ウ 民間が所有しているスポーツ施設を把握し重複を避けることも効率的な施設運営には必要と考えています。(例 サンピアテニスコート サンピアプール等)

エ アンケート分析⑦から利用者が少ない、老朽化が著しい、類似公共施設が近隣にある並びに施設利用者が地域住民に限定され全市的な利用ができていない施設については縮小方向で進める。

オ 体育施設アンケートの結果を参考に市民の声を十分反映した計画とする。

### (2)【スポーツ施設再編計画 個別計画】

※個別計画については、基本計画が確定してから再提案する